

別紙

C 幼稚園での保育室内の残響に関する
インタビュー逐語起こし

平成 27 年 12 月 25 日

同志社大学赤ちゃん学研究センター

目 次

1. 保育室内の「残響」に関するインタビューの目的と方法
2. 3歳児クラス（吸音工事前）の担任A教諭のインタビュー（1回目）
3. 4歳児クラス（吸音工事済）の担任B教諭のインタビュー
4. 3歳児クラス担任（吸音工事後）の担任A教諭のインタビュー（2回目）
5. 5歳児クラス（吸音工事済）の担任C教諭のインタビュー

1. 保育室内の「残響」に関するインタビューの目的と方法

「残響」に関する教諭へのインタビューの目的は、1) 残響時間を減じるための吸音加工工事が実施されていない保育室については、実際に保育を行っている教諭にその具体的な感覚を中心に訊ね、どのような意識を持って保育が行われているかを知ること、さらに、2) 加工工事が済んだ保育室で現在保育活動を行っている教諭に対しては、加工前の保育の意識と現在との具体的な相違点を、教諭の語りから得ようとした。

教諭を対象としたインタビューの方法以下の通りである。第1回目、1学期終了後に現在3歳児の担任A教諭（3歳児保育室は吸音の加工工事が行われていない）と4歳児担任B教諭（4歳児保育室は既に加工工事済 注）に依頼して実施した。それぞれ30分程度を予定して行った。事前に訊ねたいことを概略伝え、研究者がそれぞれ質問をしながら行った。第2回目は、加工工事が終わりその室内で保育を行っている3歳児の担任A教諭と、5歳児担任のC教諭（5歳児保育室は既に加工工事済 注）に依頼し、それぞれ30分程度を予定してもらい実施した。事前に訊ねたいことを概略伝え、聞き手がそれぞれ質問をしながら、またその都度不明な点について質問を挟みながら行った。聞き手は、全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構 久保健太氏、溝口義朗氏、同志社大学 高野裕治氏が、司会及び記録は同志社大学 志村が担当した。

注：3歳児室（1組）の加工工事による「残響」の変化について

図1には、3歳児保育室内の残響についてのデータを提示した。これらは、具体的には、吸音工事前と後の平均残響時間の比較である。本報告で実施した他園での残響測定の手法と同様に行われたものであるため、測定方法等の詳細は割愛した。

この図からもわかるように、吸音工事前の室内残響レベルは500Hzから4KHzの周波数帯域ではほぼ0.9秒から1.1秒の範囲で、残響時間が長い結果となった。一方、吸音工事後の室内残響レベルは、緑色の四角で示した500Hzから4KHzの周波数帯域はほぼ0.6秒から0.5秒の範囲となり、四角で示した部分は大幅に残響時間が短くなったことがわかる結果となった。この0.6秒から0.5秒の値はスウェーデン等諸外国で、基準値とされる値で、日本国内でも学校の教室についての推奨値で

ある。

なお、工事に使用した吸音材は、保育室内の天井の低い部分は全面に「吸音板」を貼り、一方、天井が高い部分については両サイドの壁面に壁と同色の「吸音素材」を貼りつけた。この工事内容は、既に実施した4歳児及び5歳児室も同様であった。

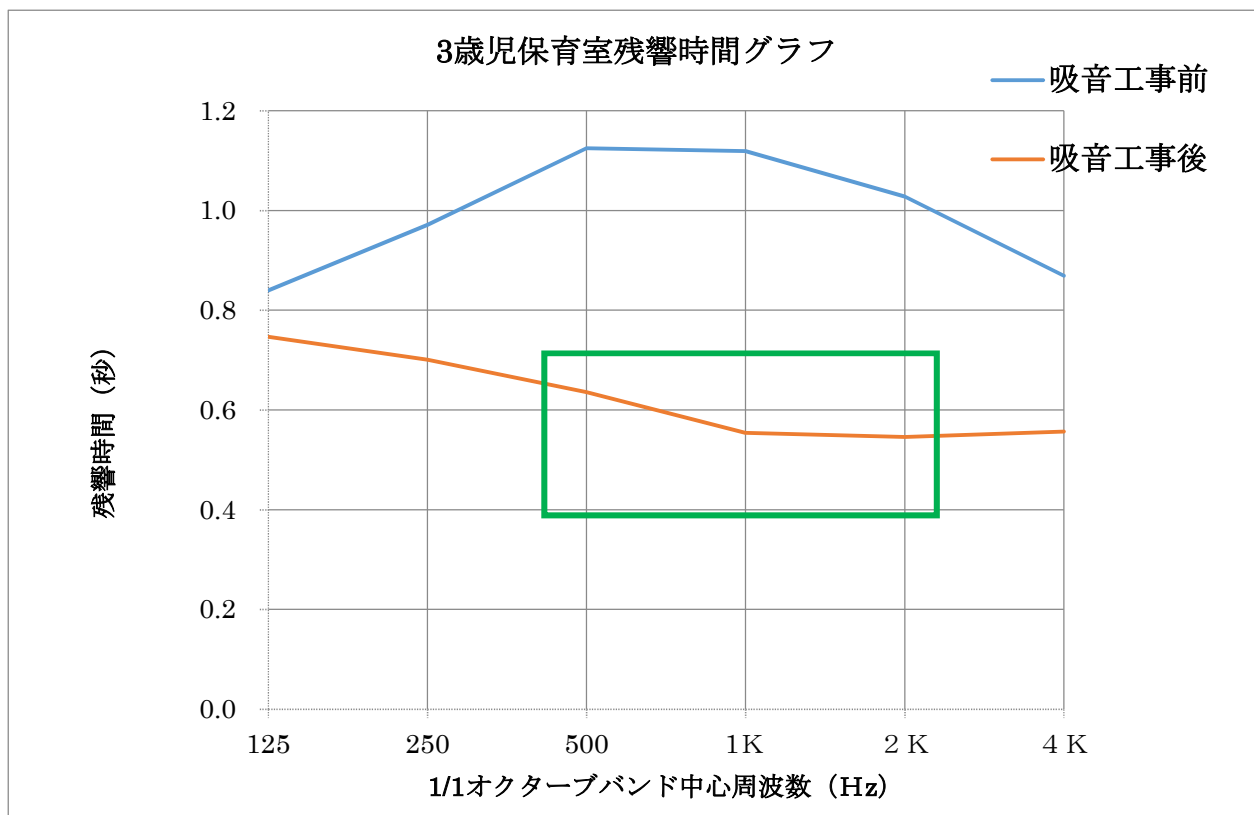


図1 C幼稚園3歳児室の吸音工事 前と後の平均残響時間の比較

<逐語起こし>

2 3歳児クラス（吸音工事前）の担任A教諭のインタビュー（1回目）

吸音加工済みの4歳児室内において 2015.07.24

Q. 現在の3歳児室と前年度担任した4歳室の違いについてうかがいます。

東京都の幼稚園の教員から昨年C幼稚園4歳児クラス担当となったので。東京の幼稚園では子どもが騒ぐ子があり、あまり保育には良い環境ではなかったのが実際の状況だった。ここに来て自分のクラスに、後で吸音材だとわかったが、落ち着いた保育をするために意味のあるものだという事は知っていたが、壁に白い横長の何もない枠があり額縁のように見えたので、そこに年度当初に子どもと一緒に何かステキな壁面を作って飾りたいと思ったが、それは直にモノを貼ると効果が無くなるので、貼ってはいけないものだった。

Q. 前にいた園とこことでは、保育していて違いましたか？

年度当初は子どもの実態が全く違うので、なんとも言えないのですが。簡単に言うと活発とかやんちゃとか。騒々しいといいますか、保育をしたときに実態そのものが違い、音の環境と言うより、保育をかさねるにつれて自分の声の響きが違うなというのが実感だったです。

ただ、4歳から3歳クラスに移動して今年は、去年1年間そういう「装置」（聞手注：吸音材の入った額縁的なモノ）のあるとこにいたのが、今年ここに来てわかったというか。4歳クラスのときには、まだその装置の恩恵、吸音の効果があるがわからなかったの。

今年はこの3歳児室に来て自分の声が違うというか、4歳と3歳の違いや保育室の変化と人数の変化自体、担任としての癖かもしれないですが、今年自分の声が違うなと思います。響くなあと思うんですね。子どもたちの実態は絶対違うし人数も違うのですが、子どもの声による変化より、今のところは保育の変化よりも、ここで私の声の響くんですよ。

Q. 変化と言われた声の違いって、どんなものですか？

はい、響きですね。今言った一言も3歳児室ではより響いてると思うんですよ。これくらいの話し声でも、4歳のクラスにいるより響いていると思うんですよ。

Q. 小さい声でも通るといことですか？

いや、自分に返ってくるというのかな。3歳のクラスに入ると響くんですよ。大きい声と言うのでしょうか、全体に聞かせたいと思うとき、力を貯めてみんなに聞いてほしいと思うときに話すと、より響いているなど…。子どもたちみんなに届いていると思う大きい声は、良いと思って話しているんですけど、いや、響いて話しているのがいいことかどうかわからないですね。

Q. 声の出し方が変わったんですかね？

声の出し方は同じだと思います。伝え方っていうんでしょうか、言葉の選び方とか、伝えたいときは音量自体は同じではないかなと思います。響きが変わったというのかも。

私1人が違うと言うことは、子どもは20人なりの声の大きさがあるわけなので、いまは自分の声の響きが1番なのかなと思います。

Q. 率直に言ってこっちのときと前の状況と比べたときにどちらがいいと思いますか？

んー。好みかな。ホールみたいな響いてほしいと思うときやそう思う人もいるし、届いているか不安になる人もいるかもしれないです。部屋の奥まで届いているのかなと感じた人もいるかもしれませんが。それは担任1人だけが話しているときですけれども。

私がこれから楽しみなのは、1学期間過ごしてきたこの数ヶ月と、これから工事が終わって装置がついて、そこで初めて子どもたちの声に、ちょっと気が付いて聞こえるかもしれないの。

Q. 製作したりするときに言葉がけをしますか？

はいそうですね。製作したりするときは、手を洗いにいきなさいとか、トイレに行くように言葉

がけをします。そのとき、具体的に何をするかを、方法どうするかを子どもたちに具体的に伝えま
す。他の先生が指導案を見ても誰でも指導できるように、と言いますか、わかりやすく書いていま
す、指導案を。

Q. 東京都のときは保育室は反響する環境だったんですか？

私はここでの部屋の中での響きは、東京都から来たということでまだ去年は十分わかっていま
せんでしたが、クラスの人数は20人定員中、10何人と言う所でやってきたので、音の環境としては
それほど意識してなかったのですが、30人ぴったりいる今のクラスはかなりすごいです。

前の所では保育に余裕がなくて、音の事まで意識していなかったところもあります。今は自分自
身が変わってるというか、そういうところもあります。

Q ありがとうございます。

以上。

3 4 歳児クラス(吸音工事済)の担任 B 教諭のインタビュー

吸音加工済みの4歳児室内において 2015. 07. 24

Q. 音環境としてこの保育室はどうですか？今年着任されたばかりで、感じられないかもしれませんが。

東京都の幼稚園から移動して、今年この園に来ました。

絵本を読んでいるときの聞き方と言うか、こちらの喋り方と言うか、がうまく言えませんがシー
ンとして聞いている様子は、私の言葉がスーッと入っていくような感覚がします。東京では人数は
もう少し少なかったのですが、自分の声も子どもの声も「かけ回っている」ような感じがしました。

Q. 子どもへの言葉かけのスタイルが変わったりしましたか？

一対一のときはそんなに意識はしていないんですが、研究協議会（聞手注：1年に一回、保育を公
開し見学者とその後の協議を行う会）のときに、すごく静かだったこともあって、そのときに子ども
たちに全体で話すときや聞くときは、子どもたちへの声の伝わりかたのは違うのかと感じました。

Q. 東京のときは何人いたんですか？ここは30人ですね。

22人でした。そうです此処は人数が多いんです。この幼稚園が以前定員35人だったっていうの
はびっくりです。信じられないですね（笑）。4歳30名。実態にもよるかもしれないんですが。で
も、子どもが聞きに入ったときが違うと思います。子どもが聴く、という気持ちになってからの伝
わり方、聞き方の姿勢が変わったと思います。こちらの伝える形は同じだと思います。

Q. 不思議ですね。

お答えになりますか？

Q. 全体に話すときと、おしっこ漏らした子とかのその子に話すときとは違いますか？

自分の中でですか？そうですね、そこまで大きくは変わらないんですが、あっちまで届けようと言う全体への話し方と一対一のときは違いますね。意識をしていないんですが、自分なりに違うかなとは思いますが。

Q. あっちまで届けようと思ったときには、何か違うんですかね？

同じくらいだと思います。そんなに変わらないと思います。

特にこの学級はリズム遊びが好きなので、踊ったりが大好きなんですけど、以前の…東京…ではキャ〜ッと叫ぶと頭が痛くなったりする 때가多かったんですが、ここでは保育中に頭が痛くなる事はないんですよ！（笑）。

Q. 音で頭が痛くなることがあるんですか？

はい、ありました。なんですかねー、頭がキンキンする、というような感じがしていました。

Q. 「うるさい」って言ったらどうなるんですかね。

うるさいことに「うるさい」って言ったら、ほとんど子どもにとっては相乗効果で、隣で何言ってるかよけいわからなくなってしまうので、ちょっと待つか、ちょっと違う事をして視線を向けさせるか…。中心源になっている子どもを捕まえるか、です。

Q. それぞれが遊んでて、こっちの角で遊んでる子どもは、あっちの隅で遊んでる子どものこと気にしてますか？

どれぐらい遊びに入り込んでいるかにもよりますが、見ている子は見てます。話し声は聞こえないかもしれないですが、誰がどこで何をしているかは子どもは私より知っているかも知れません。

Q. ここでの 30 人対 1 人と、前の東京のときは 22 人対 1 人だったので、30 人の方が複雑で大変そうな気がするんですけど。つまり、子どもの数が少なかったときの方が、どこに誰がいるかとかが、よくわかるんじゃないかと思うんですが。

年齢にもよるかもしれないですか、大きく違いがあるとはとは思いませんね。

Q. 単純に 30 人という人数とかではないと。

ただ、去年は 22 人だったんですけども、平行学級だったので、つまり 2 クラス 44 人で、同じ学年があってそれがパーティションで遮られている部屋だったんで、うるさかったかも知れませんね。

Q. 並行学級？同じ学年で。音が駆け回ってるんですね。

はい。そうでしたね。

Q. 主活動で比較的子どもをどこか一つの所に集めるとか、活動を遮るような言葉がけがある、と思うんですがそういうときはどうですか？

ただ、安全面だったり、トイレを抑えたいということがあれば、一旦止めて話をしてから進めることがあります、でも生活の流れがわかっているならば、止めることで気持ちが途切れるということがあれば、伝えながら、「絵を描くのが終わった人はトイレに行こうね」「じゃあお片づけ終わった人からお弁当食べようね」と、言うような流れにしていきます。

Q. 両面あると言う事ですね。で、トイレはいつ行くんですか？

朝と帰りは行っています。あと時どきは自分で行きたいときに行くようにしています。

Q. 朝と夕方はトイレに行くよって一斉に声掛けするんですか？1日の何回かはトイレに行くとき声かけをしてるんですね？

そうです。朝と帰りですね、一斉は。

Q. ありがとうございます。

以上。

4 3歳児クラス（吸音工事後）の担任A教諭のインタビュー 2回目

吸音加工済みの3歳児室内において 2015. 10. 30

Q. 加工工事前に色々お話を伺っていますが、今回は、吸音工事をする前の保育室と吸音加工を実施した後保育室の違いについてまず伺います。

そうですね。まず見た目の影響っていうものは、ほぼないですよ。目につかない場所にあえて設置していただいたっていうところが、子どもたちにとっては、一学期とほぼ同じ環境でスタートできたっていう、視覚的な変化が大きくなかったっていうところは、いいところだな、ありがたかったなって思います。

実際の音については、子どもたちの実態も少し変わってきたってところは一学期の後半はあったかなって思うんですけど、やはり一学期は子どもたちの声がよく響くようになっていて感じました。20人だからっていうこともなんですけど、一人ひとりの声が残るかな、っていう感じが少しあったんですけど、そういうところが、響かないって言葉で表わすのちよっとわからないんですけども、残らないと感じたところです。

Q. 残らない？余韻が残らないとそれは、いい意味ですか？

そうですね。はい。最後に余韻みたいなのが残らないです。余韻が残らないってところで、工事をする前と違うかなっていうふうに感じました。

Q. 例えば聞き取りやすくなったとか？

はい。小さな声は、元々響かないと思うんですけど、大きな声程よく残る、余韻が残ると思うんです。その大きな声の残り方っていうのが、前はすごく気になっていたんですが、おさえられたなって、変わったから気付いたっていうことで。以前と同じだったらそれが響いているってことも多分、わからなかったと思うんですけど、変わったことで響いてたんだなっていうふうに思いました。

Q. 今日、食事のときでも、お隣の子同士でおしゃべりしたり、まあひそひそでもないけど、ああいっただけの光景は昔からあったんですか？例えば音が響くとその周りの残響にかき消されちゃって、そんなに二人だけの応答っていうわけにいかなかったのかなと思って、そういった周りの声を気にせずに自分たちだけの会話ができていますよね。

そうですね。そこは今になるとそうなのかなって思うんですけど、私の捉えは子どもたちがそういう隣の子との会話を楽しめるだけの人間関係が育ってきたっていうふうに私は捉えていたので、そういうところではごめんなさい、ちょっと環境的なところでの変化っていうふうには自分では考えてなかったですね。

Q. ご飯を食べてるときに隣同士の子どもが会話するっていうのは、3歳でも成長してからじゃないと成り立たないものなのですか？

このクラスの実態ということも大きいところもあると思うんですけど、まず自分が食べるというところにその時間を集中するっていうところがまずスタートで、困ったことがあったら、先生は求めるけども、隣の子の事は意に関せずっていう感じのスタートから、今度は好きな友達が近くに來たらしゃべるっていうところが出来てきて、そこがだんだんだんだん広がって来て、このクラスの子だったら、誰とでも分け隔てなく話せるようになるっていうふうになってきて、今はどの席に座っても、その席の中の子たちとは何かしらのやりとりが生まれるっていうふうに変わってきたところなんです。

食べているときは、視覚的に同じものが入っているっていう共通点があるので、子どもたちの関わりのかきかけにはすごくなっているかなって思います。

Q. 子どもの会話はどんな内容なんですか？

会話ですか？お弁当のことを話すのは、どのテーブルもあるかなって思うんですけど、なんかふとした言葉のリズムのおもしろさをみんなでおもしろがるみたいな。最近は、「宇宙人」っていう新しい言葉をそれをみんなで言うとか。

そういう新しい言葉を耳にした刺激っていうことと、意味のおもしろさっていうか、後は「音のおもしろさ」みたいな、リズムがあるおもしろさみたいなものですね。本当にその内容がわかってやりとりをしているっていうよりも、なんか声が揃うことのおもしろさのような、本当の言葉の、私たちが考える会話とは違う、でも関わっている「言葉のやりとり」っていう感じなのではないか。

Q. 園庭で遊んで、外から中に入ったときの、なんていうか「音」を含めての感覚って、吸音加工する前とした後、で変わりましたか？今日、外にいた方が音の響きがある（響く）ような感じがしてたんですが。

外の方が響きますね。で、響くように多分私も話しているし、子どもたちも大きな声を出しているっていうのがありますよね。

私も今ちょっと振り返って思ったんですけど、子どもたちに声の大きさについて自分は結構指導しているなって思います。特に室内では。

小さい子って、「きいっ」っていう声とか「いただきます」「ごちそうさま」もすごい大きな声で「ごちそうさまでした！」って言うことがあるんですけど、それは気持ちのいい声ではないってことは、わりに年度当初から繰り返し、そういう声が聞こえたときには、「もうちょっと優しい声がいいな」とか言っています。「優しい声」っていうことで、そういう声の大きさを割と指導しているなって、室内ではそういうことを意識していますね。

今日も一回あったんです。「ごちそうさま」をしたときですが、「じゃあみんなでごちそうさましようね」って言ったあと、「ごちそうさまでした」って言ったら5人くらいの子が、すごい大きな声で、乱暴的って多分聞こると思うんですけど「ごちそうさまでした」をしていて、これは言うだけで本来の「ごちそうさま」とは大分かけ離れてるなって思ったので、「もう一回〇〇くん、ごちそうさまって言ってみて」って言ったら、「ごちそうさまでした」ってすごく落ち着いた声で言っていたので、そういう「ごちそうさま」だと作ってくれた人も、作ってよかったなって思うしね、と話しました。

Q. 一学期に比べて二学期の方が人間関係が育ってきたというような感じはされますか？

そうですね。時間がたてば変わってくるのもありますし、そういうことをこちらも見通して、関係を中心にしたかかわりや活動を、意図的にといますか入れていますね。

そうですね。ただ、こちらがリードしてそういうことをしていくっていうよりも子どもたちの中で、一人きりで遊びたいって、それが楽しいっていう時期から、友達に目が向いた、意識が向いたっていうその瞬間を見逃さないっていうことの方が大きいかなって思いますね。それをあえて、早く友達に意識向いてほしいって引き伸ばすよりも、子どもたちが前はこうだったのがちょっと周りを見ているなっていう、その視線とか、そっちに足を向けているなっていう行動を見たときに、そういう姿を見た瞬間を逃さないでそれをチャンスとして子どもを支えていくという、そこを見逃さないぞっていう意識の方が大きいかなあ。

Q. 周りに意識が向いてくるときは、いつごろですか？個人差あると思うんですが。

個人差はすごくあるんですけど、年齢によってもあると思うんですけど…。3歳の友達と4歳の友達と5歳の友達と、同じ言葉でも意味がちょっと違うと思うんです。3歳でも友達には意識は向いてるっていうのはありますが、うーん、たとえばそれは一学期の終わりには、何かしらのそれぞれの子どもの「友達に気持ちが向いている」っていう面は出ていたと思います。

言葉で「〇〇ちゃんと一緒がいい」と言える子もいますし、そうではなくて言葉は何も出ないけど視線はそっちに向いているなっていう出し方をする子もいますし。そこは、この姿こそが友達に気持ちが向いているっていうのは、10人いたら10人なりの特徴があるなって思います。

Q. 話が飛びますが、入園直後の時期は室内はにぎやかですか？

すごくにぎやかですし、物もあるものはひっくり返したいっていう、片付けたとたん全部またバラバラになっているっていう感じの、本当に物も子どもたちの動きも予想がつかないっていう一ヵ月でした。最終的には、2~3週間かけて安心してもらうのは担任、っていうところが大事なんだと思うんですけども、ただ幼稚園が怖い場所ではないということを知ってもらうには、そこは担任がもし不可能なのであればほかの先生がいるっていうことでまず安心材料を見つけていくという…。非常勤の先生もおられますが、2日ずつなので、子どもたちは、「あ、この人安心できるな」って思って関わっても、その先生はいつもいるわけではないっていうところで、やっぱり子どもたちは、自然とといいますか担任の方に気持ちが向いていくっていう流れが作られることになってますね。

Q. もうひとつ聞きたかったのが、3歳児の入園当初、子どもにとって安心できる存在として認めてもらうために先生は色々なことをされてますが、子ども同士でお互いに何か、お互いを安心できる存在にしていくために、子ども同士でやっていることがありましたら、教えてください。

友達関係も始まりは、関わりにはより前があると思っていて、同じ場所の中にいるっていう場所を共有すること、そしてモノを共有すること、それは同じものを使うっていう共有と、同じようなものを身に着けているっていうおそろいの共有もあります。

関わってはいないんだけど、同じ物を身に着けている、同じものを使っている私たちって一緒だよっていう、そういう一緒から始まるかなって思いますね。

ただ、それを終わると友達関係は安心できる存在から、子どもにとってはちょっとやっかいな、先生と遊ぶのはいいんだけど、友達は自分にとってはうれしくない存在っていう時期を子どもたちは味わうんだろうなって感じます。

安心とか、友達はいいものだって思うのは、こちらからは楽しそうに遊んでるように見えるけども、本当の子どもたちが友達っていいなって思うのは、実は4歳5歳、もっと先のことなのかなって、私は思ってます。

Q. 3歳の間だと、自分がやりたいことに没頭できないっていうことも起きるって意味で、この子がいなければ自由にできる、ということも？

そういうことあると思いますね。自分だけだったら全部これ使えるのに、誰かがいるとそれを一緒に使おうとする人がいるとか、自分はこう作りたいのにそれを邪魔するっていう。だけど友達がいいものなんだってことは、やっぱり集団生活ですから何とかして実感してもらうように。一緒にやることは楽しい、でもそれがやだやだって、やっぱりいやだったっていう積み重ねは子どもにとっても、また学級経営にとっても殺伐したものになってしまうと思います。

子どもたちは、友達は厄介なものなんだけども、でもやっぱり一人よりも誰かがいてほしい、求めている、求めているけどもそこがうまく噛み合わないところを、例えば他のものでいいんだったら他のもので代用するとか、一緒に使ってみるとか、順番っていう方法もあるんだとか。そうすることによって、自分は少し我慢するかもしれないけれども、誰かとかかわれるっていう楽しさを味わっていくっていう、そこは本当に援助、本当にあらゆる援助があるなって思うんですけど。それこそが私の役割だなって思いますね。

Q.長時間ありがとうございました。

以上。

4 5歳児クラス(吸音工事済)の担任C教諭のインタビュー

吸音加工済みの3歳児室内において 2015. 10. 30

Q.吸音工事をする前の保育室と吸音加工を実施した後保育室の違いについて

25年度も5歳が担任だったんですが、その前の24年度に工事をやっていただいて、そのときの劇的な変わり方というのは、本当に数字上はどれくらいかはわからないんですが、感覚としてもものすごく「楽になった」というのはあって、だいたい3歳クラスの担任をすると翌年は5歳クラスの担任になることが多いんですけど、ものすごく騒音というんですか、その前までは、こんなにうるさかったかというくらい、疲れるっていうか耳が疲れるとを感じる感覚があって。

吸音材を入れる工事のお話をいただき、25年度にその前年に吸音材を入れた保育室の担任が言っていたんですが、実際に自分がそこで毎日生活してみて、すごく楽だなというのは思いました。だから大人がそうなんで、結局子どもも楽なんだろうなというふうに思いました。

それから、25年度と今年27年度が同じ5歳なんですけど、どの辺が違うかな、と考えると今年の方がより楽なんです。多分、環境面のハードの面だけでなく、人数が35人から30人になっているのが結構大きいのかなと思っています。

保育所だと一人につき何平米みたいな基準がありますけど、どれくらいの大きさの室内に何人いるかが、結構大きいだろうなって思います。ずっと35人の学級しか持ったことがないので、今年、人数が30人になったときに、5人違うだけでこれだけ違うのかと。5人違うというのは子どもの人数が減るだけでなく、物も減るんですよ。5人用ロッカーが一台減り、机が一台二台と減って、一人の使うスペースと、一人一人の距離が変わってくるのかなっていうことを感じてます。

あと、今年はイレギュラーで男児が12人、女児が18人っていうクラスなんですね。男女が半々じゃないクラスで、25年度は男が17になり、女が18人で女児の数は変わってない。男女っていうのは結構声の感じ方なんですけど、男児のからだの大きい声の子って、女の子の何人分っていうくらいの声になるので、多分感じ方はその点も楽かな。35人から減った5人がすべて男の子だっていう所が大きいかな。吸音材の効果ももちろんあるんですけど、両方あるかなって今年は思います。25年度はほんとに吸音材の効果をすごく感じたんですが、加えてそんなことも感じました。

Q. 今日、先生の保育の際のお姿を拝見していて、声のトーンが抑えられていることに気が付きましたが、ああいったことは施工前もそうでしたか。以前と比べて、先生自身の声のトーンは変わりますか？

無理して声を出さなくてもいい場面は多くなったと思います。

Q. それは子ども同士の声のトーンも変わっているからですか？

子ども同士の声も、一斉に集まる食事場面ですとかクラスで集まる場面があるんですけど、全体で活動している場面ではある程度意識を持って、子どもも声を抑えたりするんですけど、食事なんかで本当に自由に会話するっていう場面のときには、こちらも「ちょっとちょっと！」みたいなことを言わなくてよくなるというか。多分おなじ調子で子どもはしゃべっているのかもしれないですけど。こちらはそれが苦にはならないので、うるさいなっていうふうには思わないです。前は食事の時間はうるさいなって、自分が食べたくないって思うくらいの感覚があったので…。

Q. では工事が行われた後の時点でかなり緩和されたんですか？

大分違うなっていうところがあって。それが一番感じました。普段遊んでいるときは子どもの出入りもあったりするので、そんなでもなかったり。感じる時と感じないときあるんですが、食事の時間が一番ですね。

Q. 食事の時間を拝見していて、うるさい子に個別にもう少し落ち着けば、って声掛けしますよね。一方「あなたたち静かに！」って全体に声掛けするようなタイプの保育だってありますが。そうじゃなくて個別に言えるようになったという変化はあるんですか？

それは変わらないかもしれません。必要な人には必要なことを言い、ほかの人には言わない。注意するのはなるべくほかの子に目立たないようにっていうんですかね。その子にさえ伝えればいいかなと思うので。こちらのマイナスの評価をほかの子に知らせるということは、極力避けた方がいいかなっていうふうに思っています。

Q. ではそれは吸音もたらした変化というより、先生がもともとそういうことを意識されていたということですね。

ただ、その回数が減ったというのはあると思います。「ちょっとこのグループのひとたち静かにして！」みたいなことがなくなったっていうんですか…。本当に個別の、声の大きい人に言えばいいだけ、っていうふうにはなりましたね。

Q. では以前はもっとギャーギャーしていました？一番変わったのはどのあたりですか。

多分、子どもはギャーギャーするつもりはないと思うんですけど、ギャーギャーって聞こえるんですよ。本当にうるさかったです。全員が狭い空間に集まったときに、声をいっぺんに好き勝手に出すっていうのが、食事とか着替えてるときとか、後の時間帯は結構ずれて活動が進んでいくので、こちらも動いているのでそんなに気にならないんですけど、座った姿勢の状態ですぐ声が出るっていう時間が一番苦になる感じだったんです。

それでも今日は好きな順にしたので、割と気の合う人と座っていたんですが、普段は生活グループであまり気が合わないというか、普段関わらない人たちをグループ分けにしているので、会話ももう少しなくて。パッと食べちゃって、食休みに、レゴとか絵本の方に行って会話する方が多い子もいるかなって気がするの。今日は気持ちが近くて会話をしたいような人が多かったですが、声のトーンはそんなに変わらないかな。

Q. 帰りにみんなで歌をうたったときの声の出し方とか、先生が子どもの歌を聞いて、響きがいいとか悪いとか、そういう意味では吸音の影響はどう感じてますか？

歌ですね。とにかくみんなで声を出す瞬間は、歌だろうが会話だろうが、うるさい瞬間っていうふうに思う感覚の方が多い。今は歌っているっていう感覚を持てるっていうんですかね。今は「歌」っていう感じはします。それを子どもがどう考えているかはわからないですが。

Q. 私のイメージよりは、今日の子どもたちの歌い方は無理やり声を出している感じではなかったですね。

歌はとにかく大きな声は出さないように、ということは常々意識はしているので。「いい声を出そう」ということですね。それと、最近は曲にあった歌い方を子どもなりにはなんとなくわかるみたいで、「おばけなんてないさ」と「あめふりくまのこ」の歌い方は違うよね、という、それは子どもなりにわかってはいるみたいで、それをやりたい気持ちはあるみたいで。それをテクニックとして出せるかは別なんですけど。

Q. そういうこまやかな指導をしようと思うときは、今の部屋の方が状況は良いですね。

そうですね。実際出したときに思った声ちゃんと耳に入ってくるっていうんですかね。そういうところはあるかなっていうふうに思います。

Q. 実は、幼稚園で初めて聞いた正しいメロディーの歌声なんですよ今日は。大変感動したんです。女の子が多いってことも理由ですね？全然気が付かなかったの、ああ女の子が多いのかって、今、謎が解けました。

それはやっぱりだいぶ違うと思います。多分同じ30人でも15対15だとまた感覚が違うんだろうなと。

Q. 2013年の施工後に、初めて5歳児を持ったときに劇的に変わったとおっしゃいましたが、その劇的に変わった内容をもう少し伺いたいです。

勤め始めて10年くらいから明らかに耳が聞こえなくなった、という感覚が。自分の耳が悪くなったという…。1997年から勤め始めて10年くらいでしょうか。明らかに耳が悪くなっているっていう感じですかね。聞こえないっていう感覚があって、職業病なのか自分の管理不足なのかわからなかったのですが、本当に聞こえないっていう感覚があって、家に帰ってテレビの音量がうるさいっていうふうに、自分では全然気づいてなかったんですけど、大きくしないと聞こえないっていうふう

になってたようなんです。その後しばらくして、志村先生から吸音材を入れるお話を頂いて、これはちょっとでも、とすがするような思いもあったりして。

だから、そういう意味では最近では耳が疲れたなっていう感覚を持つ日はないので。ああ本当に疲れたな、というか家に帰ったら静かに暮らしたい、というくらい耳が疲れてるっていうような、明らかに意識というか自覚できるくらいうるさいと。それが特に年長を持った年は悲惨っていうくらい、「くたびれたなあ うるさくて」っていう感覚をもつ日がありました。

Q. 子どもの姿がどうか変わったんだろうと興味があるので…。子どもの行動そのものも、変わりましたか？

印象論ですけど、声のトーンが荒くない気はします。子どもっていうのは基本的に声のトーンと行動がだいたい一致するので、荒い子は、声も荒い、っていう感じがするので、そういう意味では言動ともに荒さが目立たなくなったっていうんですかね。

後、本当にうるさいのが敏感で嫌な子がちょっと場を離れるみたいな、多分本当に嫌なんだろうなうるさくて、この子にとってはほかの子は耐えられても、嫌なんだろうってときに、ぱっといなくなるみたいな子は、今はいない気はします。そういう居なくなり方っていうか、精神的に不安でいなくなることはあっても、「みんながいる場のうるささ」みたいなのが不快っていうことを感じる子は少ないような気がします。

Q. 過去にはいたんですか？

いました。いました。明らかにこの子はこのみんなのいる場、人がいるだけじゃなくてわさわさしている感じが、嫌なんだろうなあっていう。持ち味だったと思うんですけど。家で静かに暮らしたりすると、園に来るだけで「よいしょっ」ってがんばって来てるんだろうな、っていうような。家での声のボリュームと幼稚園でのあまりの違い、その差がね。大変なんだろうなって。

Q. 声のトーンが荒いということは行動が荒いっていうことに随分関わってきますよね。本来荒くないパーソナリティの持ち主でも、荒い場所いることによって荒さが表出するということはあると思いますか？施工前は、この子荒っぽい子だっていう子が多かったのか、または、施工後は荒っぽい子だと感じる子が少なくなった、ということはあるですか？

そうですね。どこでトラブルがあったときに解決する場をどの場所とするかが違うような気がします。結局保育室ではわあわあ言っていると、解決時間がどんどん長くなるばかりというか、感情もいつもうるさい中で言ってるので、相手の声を聞こうっていう気持ちにそもそもならない。落ち着かないっていうんですかね。そんな感じはある気がします。

なんか保育室でのトラブルがさっと解決できるかできないかという違いは大きいような気がします。外はそんなに変わらないですが、中でトラブルが起きたときに、「わあああー」っていうような口げんかみたいなのが少なくなった気がします。一応何を言っているかちゃんと聞かなくちゃ、という前段階の気持ちを整えられる状況、っていうんですかね。

なんか「わあああああ」ってお互いなっていると、「うわあああ」っていうそのことだけが先に入ってきてちゃって、なんかこの人怒ってるわ！みたいな印象が、ワッてきて、こういうふう伝わり

やすいつていうんですかね。

そうじゃなくて音がちょっとでも、こう、言葉そのものが耳に入ってくるようになることで、「この人はこういう考えなのか」ってことを、聞こうとする体勢をとりやすくなるっていうんですかねえ。だから、相手が「わあっ」って言えば、こっちも「わあっ」って言う度合いが大きくなって、相手が「わあっ」ていうつもりがなくても、「わあっ」って聞こえる相手にそういう印象を与えやすいつていうんですかね。相手も、反対の子も、「わあっ」って言ってるように、もう一方も受けとるみたい。そんなに怒ってませんけど、いや怒ってるでしょ、みたいな。

Q. 反響しちゃうことによって、怒ってないときにも相手が怒っている、と思うことがあったのではないかということですね？

特に、だいたい怒るときがこういう一角なんですよね（聞手注：保育室の入口近くの隅を指す）。わりと天井が低くて、ままごとのカーテンがあって、ちょっとこもった所でだいたいそういう。物理的に距離が狭い所で、そういうトラブルが起こりやすいので、そうすると「わあっ」とその中で、なんていうんですかね。声がこうなるっていうんですかね（聞手注：保手をグルグルさせて）。まあ、どうしても物が多いスペースなので、ほかよりずっと物が多くて人も多いのでスペース的に。

Q. けんかで泣くこと結構ありますよね。泣くと、すごい音量になるじゃないですか。周りもなんとなくちょっと遠巻きにこういう感じで見てたり。でも、今日はいざこざがないのが驚きでした。

泣く子があると周りがうんざりしちゃうって感じですかね。音のうるささに。

今、思い出したんですけど、もしかしたらけんかをしてる事が、その子たちの問題だけで済むようになったっていうのかな。ほかの子たちは、何か騒ぎが起きてるみたい、なんかまたあそこでそういうことやってるみたい。少し「いざこざ」が起きたみたい。別にその当事者だけで解決できるような内容でも、ほかの子たちが入ることでぶり返す。もういいよ、やじ馬さんたちは。そういう感じですね。

そうすると、こういうことが積み重なっていくと、それぞれの遊びが自分のことにならないっていうようなクラスというか、そういう期間がなかったとは言えないのです。

Q. 5歳の子も泣くんですか？

泣きます、泣くときには。でも今の子はちょっと泣いてもパッと気持ちを切り替えるっていう感じですかね。ほかの子たちもまあしょうがないよね、みたいな。

Q. 今日はかなりおもしろい会話をしてましたね。聞いてたら、かなり長い会話のやり取りの中で、呪文のようなものを「私はどうのこうの」っていうのをやってたんですけど。先ほどのイライラする環境であったり落ち着かない環境では、とてもこうした行為はできない気がしたんですが。やりやすくなったとか、そこら辺はそんなに変わらないとか、ありますか？

あの、とにかく保育室が静かになったっていうのはあります。多分それはトラブルが減ったっていうこと、保育室内のトラブルが減ったっていうことになると思います。いつ入っても、保育室は静かっている感じですかね。なんかそんな感じです。

遊戯室はなんかガチャガチャしてる気がして、遊び方もそうなんですけど、積み木とかガチャンとか、「おおっ」ってびっくりする音、子どもがびっくりする様な音がするんですけど、なんか静かに事をやりたいときには、自分の部屋に行けばいいって、子どもは思ってるみたいです。

とにかく部屋は静かにする場所。静かにできる場所。静かにしてほしい場所っていう感覚は別に何にも言ってないんですけど、あの部屋はそういう部屋になってます。

「わあっ」ってやりたい人は、違う部屋、他所に行って！みたいな、感じですかね。例えば、雨天のときもそうで、雨天だと部屋の中にいる人が多くなりますけど、遊び方が明らかに違います。

部屋はとにかくゆったり静かに暮らす人たちの場所。～するんだったらこっちの場所って、使い分けを子どもがしてるのかもしれない。それが部屋の工事のせいなのかはわからないんですけど。

Q. 同じような質問ばかりして申し訳ないんですけど。先ほどお答えいただいたようなことをもう一度、お答えいただいているんですが、工事施工前と施工後で劇的に変わったってというのは、先生自身の保育の仕方、「ああここは変わったな」という、声の出し方のことさっき伺いましたけど。その他、先生自身がここが一番変わったっていうことがあればお話しください。

自分が意図することをしやすいっていうんですかね。そんなに私も怒りたくないし、穏やかに暮らしたいし、静かにしておきたい方なのでどちらかという、あまり先生が目立ちたくない、でもつつい目立ちちゃうんですけど。その辺がやっぱり「わあっ」ってうるさかったり、トラブルがあったりとか、お弁当のときわさわさとうるさかったりすると、どうしても「ちょっと静かにしてっ！」ってというような気持ちにもなってしまうんです。その辺で、こちらがいつも苦にならない、そういう苦はなくなったので、いつも気持ちは落ち着かせておける…。その辺は意識しなくても落ち着いてられるっていうんですかね。そういうゆとりはずごく持ちやすくなったかなっていうふうに思いますね。

やっぱり保育って、担任がどういう心持ちでいるかっていうのが大きいので、なんかうるさいなとか、また5歳になっちゃった、ああ今年この一年かっていうふうに始まる一年なのか、このお昼の食事時間が一年間続くのか、このうるささがずっと…と思わなくていい、よくスタートできるってというのは、それだけでも明らかに違いますよね。

それが毎日のことなので、疲労感ですが、精神的にも体力的にも疲労感が残っちゃうと絶対いい保育はできないので。今は、精一杯やってもそんなに疲労が残らないかな。

とにかく、なんか「わあっー！」っていう圧力ですか、子どもの人数以上の圧力ですね。吸音工事を施工した後に35人でもこんなに違うのかって思ったんです。子どものタイプはそんなに変わらないのになって思ったんですけど、人から感じる全体の力が減った気がします。

Q. それともうひとつ。この研究は、音の研究と同時に「子ども同士の応答関係の研究」なので、その点についてお伺いしたいんですけども。先ほどA先生から、子ども同士が友達と一緒にいることの楽しさがわかってくるのは4,5歳で、3歳だと集団生活が初めてのこともあって、一緒にいるから我慢しなきゃいけないとか、一緒にいるせいで自分のやりたいことができないとか、そういう意味でやっかいを感じるの方が多くなんじゃないかと言われてました。で、4,5歳になってようやく、我慢しても一緒にいると楽しいなっていうのが感じられて、馴染んできてからじゃないと子

ども同士の応答関係はむつかしいとおっしゃっていて、なるほどなあって伺たんです。が、先生の保育室で5歳を見ていて、子ども同士の関係、そこに保育者が媒介しない関係、子ども同士の関係を作っていくうえで意識されてることとか、働きかけてることとかはありますか？

そうですね。どの年齢もなんですけど、私のかかわり方を子どもは見てるんだらうなっていうのはいつも意識していることです。何かトラブルが起きたとき、物の貸し借りがあったときに当事者でないその周囲の子たちは、担任が何をやるかを見てるんじゃないかなって思っていて…。

子どもは、そういうふうにやればいいのか、と思ったり。逆にそういうふうにやってしまえばいいのか、とならないように。当事者は感情的になっていることが多いので、そのとき、主張が通るか通らないかで済むんですけど、周囲の子たちは、何かトラブルがあったときにどうやって助けてあげたらいいだろう、って考えてます。でも、気持ちはあるけどやり方がわからない子にとっては、大人がモデルになっていくのかなと思うので、そういったときに「負のモデル」にもなるし、「プラスのモデル」にもなるのかなって思っています。

いつも気を付けていることは、私が解決してしまわない、ということで意識しています。話はよく聞いてあげて、今日もなんか言ってきましたけど、「うんわかった、わかった、で、その〇〇ちゃんと◆◆ちゃんの関係ねって。わかりました。」と話して、それで、「先生はその話に関係した方がいい？」って言うと、いらないうっていうふうに言うので、それでも、やっぱり先生に関係してほしいっていったときは、ではどうしてあげたらいいの、って言うようにしています。

保護者の方も、どうやらあの先生は子どもで考えなさいって言うらしい、ということはわかっているみたいで、それが特に5歳にとっては必要な経験なんだっていうこともご理解いただけつつあるかなって思っています。

もちろん、子どもがどうするかってことは追っていきますけども、私は何にも困らないわけで、困っているのはこの人たちで、解決するのもこの人たち。それを見ている周りの人たちが、嫌だなと思ったら、やっぱりその人たちがどういうふうに助けてあげるか、ということですね。横の関係というか。

私はこの子どもたちと過ごすのは、卒園までの数ヵ月しかないなので、結局、一年間しか一緒に暮らせないので、ここでの生活がもちろん早く過ぎていくのは大事ですけど、ここの子どもたちはだいたい同じ小学校に進んでいく子どもが多いので、余計に横の力をどうつけておくかっていうことは意識しておかないと、と思います。D小学校の3分の1の子どもがここから行くので。そこで、他の保育園や幼稚園、こども園の生活を経験した子にとっても、友だちとそういうふうにつながればいいんだっていうモデルになってほしいなって思っています。だから、いかに横の関係をつなぐかっていうことが、いつものこちらのスタンスっていうんですかね、になっています。

これがもしかしたら、みんなが少人数でバラバラの小学校に行ってしまうような園だとまた違うかもしれないんですけど。

Q.ただ、先生が入った方が本人たちがうまくいくなっていう見極めは、どうされていますか？

感情的になっているか、なっていないかは表情とか動きでしょうか。

明らかに話が終わったようだけど、一方が感情的な顔になっているときには、その温度差っていうんですかね、それはやっぱり気をつけなくちゃいけないかなって思っていて。両方が感情的にな

っているときは、周りがおさめるって感じだとは思いますが、要はクールダウンできてればそれでいいんですけど。片方は終わっています、片方は絶対終わっていない、って言うとそれはもう後引く問題なので、だいたいそういう後は、何かケンカが起きたり、違う出方をしたり、子どもなんでそれはちょっと子どもからの訴えがなくても、終わってないみたいだよ、って呼んで、その感情的な方の子にどういうことなのかっていうことを聞いてもらってということにはしますね。

Q.長時間ありがとうございました。

以上。

謝辞：

ご多忙中にも関わらず、保育室内の観察、インタビューを許可してくださいました C 幼稚園の園長先生、副園長先生、各担任教諭の先生方に心から御礼を申し上げます。

(以上、文責：志村洋子 同志社大学赤ちゃん学研究センター)